

きずな



設立2年を顧みての思い

会長 田村勝彦

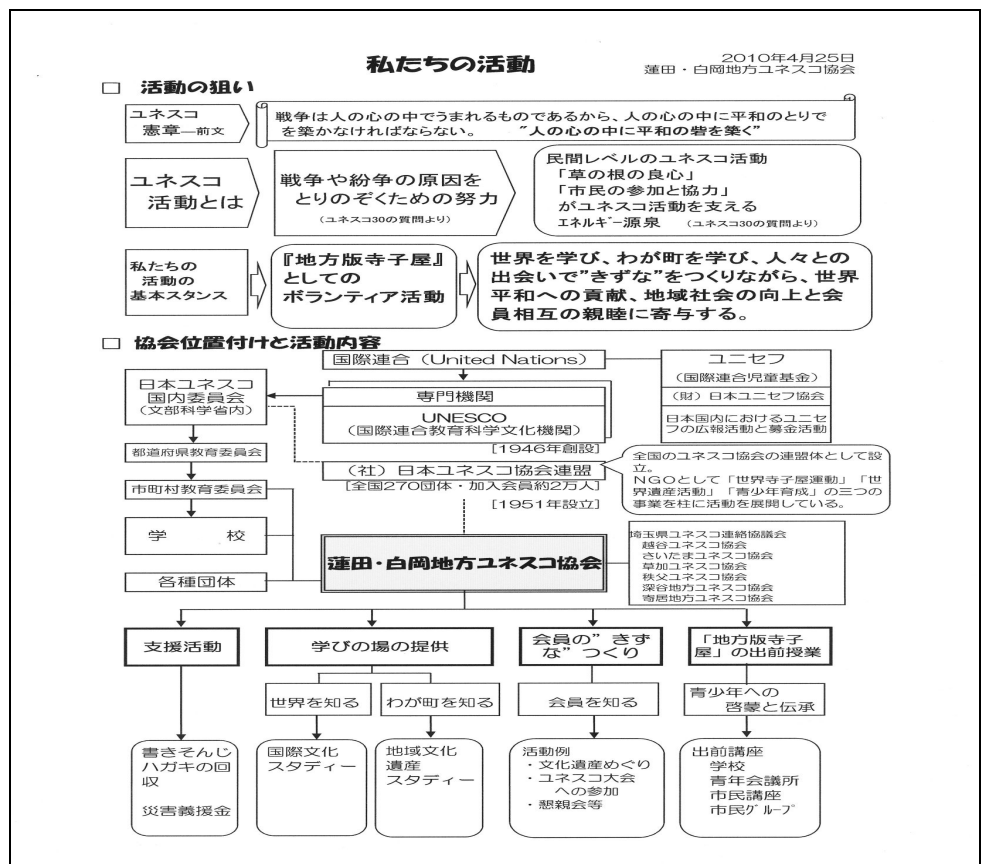
ばさばさに乾いてゆく心を 人のせいにはするな
 みずから水やりを怠っておいて (中略)
 初心消えかかるのを 暮しのせいにはするな
 そもそもが ひよわな志にすぎなかった
 駄目なことの一切を 時代のせいにはするな
 わずかに光る尊厳の放棄
 自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ
 茨木のり子詩集：「自分の感受性くらい」より抜粋

のカリスマ・金裕鴻先生である。眞露を飲み、肉を頬張り、煙に嘔せ 蒟の匂いの中、実に素朴で本音の世界があった。既に重い韓国病に掛かっていた私には、比類無き貴重な情報交換の場でもあった。前述の詩は、当時、茨木先生から戴いた詩集の抜粋である。昔から悩める時は助け、勇気づけてくれる座右の銘である。さて、此の詩を引用させて戴いたのは、当時の懐かしい時代を鑑み、我が協会の在り方を自問した事から始まる。事業の成否は、協力支援戴ける会員の確保と結束である。そして、願わくば「自分さえ良ければ、人の事は関係無い」とする「無縁社会の風潮」に一石を投じる事が出来れば幸いである。短期間ではあるが、得た経験と知識を糧として、下記「私たちの活動」の推進に各位と共に弛まぬ努力を重ねて行きたい。最後に、関係各位のご健勝とご活躍を心からお祈り申しあげ、今後も変わらぬご指導・ご協力をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

1980年代、詩人・茨木のり子さんと、斯界では伝説の韓国語教室「語友会」於・新宿で一緒に勉強する機会に恵まれた。先生は、後に韓国現代詩選を出すなど、翻訳を勉強されていた頃であった。詩と同様、力強く凛とした印象が当時の仲間との語り草である。私は課外授業が好きだった。食道園を根城に先生や、学生、報道関係・教師や商社マン・公務員等あらゆる人が集まり、まるで「梁山泊」の様であった。彼方此方で議論の火花が散る。いつも中心に鎮座しておられたのは、韓国語草創期から

2010年度総会が開催される

4月25日(日)14:00～ 「蓮田市図書館」において、2010年度総会が開催された。会員数74名、総会出席者14名、委任状36名の計50名で総会は成立し、2009年度事業報告、決算報告、役員改選(任期満了に伴う再選6名、新任2名 計8名 退任3名)について議案提出、承認された。2010年度事業計画、活動計画、予算、右記の「私たちの活動」内容も含め事務局より説明があり、今後の活動について活発な意見交換が行われた。貴重な意見は今後の活動に反映する事で意見交換は終了した。2010年度事業計画、活動計画、予算についても承認された。



事業報告-1 “世界を知る”

第2回 国際シンポジウム「海外のボランティア活動に参加して」を開催

平成21年11月14日(土) 午後2時より 白岡町保健福祉総合センター「はびすしらおか」

パネリスト：望月充丈氏(元 JICA シニアボランティア) 土井隆嗣氏 (元 JICA 青年海外協力隊員) 長谷川麻里子氏 (同左)



平成20年8月の第1回国際シンポジウムに続く開催で、49名の参加者を得て盛大に開催された。シンポジウムは、3人のパネリストから JICA 応募への動機、活動内容、派遣国の様子などに関してパワーポイントを活用しながらわかりやすく紹介された。コーディネーター(熊倉副会長)を中心に活動上で苦

勞した事、それをどう克服したか、2年間を振り返って新たに発見したこと、日本の ODA に関する印象等を語りあってもらった。その後会場参加者との質疑応答がなされた。質問の内容は障害者に対する日本との比較や途上国カウンターパートとのコミュニケーションを図る上で派遣前の語学訓練の成果と活動中の状況などに関するものであったが、パネリストから丁寧に質問に答えてもらった。最後に、3人のパネリストから将来海外ボランティアを目指す人に対して、「考えるより行動をということで、まず応募してみよう!」との体験から得たメッセージが出された。終了後のアンケートでは、「大いに満足」「満足」を合わせ 85%の方々から高い評価を

いただいた。2回目のシンポジウムを実施するに際して、青年層の参加者を増やすために新たに、地域内の中学校、高校、大学を訪問、ポスターの掲示をお願いしたが、開催当時新型インフルエンザの流行があり、青年層の参加者を大幅に増やすことができなかったことは唯一残念であった。

＝ご 案 内＝

第3回国際文化スタディ開催
万亀子・イカンダールさん講演会
開催日：10月30日(土)
場所：はびすしらおか
講演内容：
「私とインドネシア・バリ島」

事業報告-2 “わが町を知る”

第4回地域文化遺産スタディ「蓮田市の地名」を開催

平成22年2月6日(土) 午後2時より

蓮田市図書館視聴覚ホール 講師：中里忠博 元蓮田市史編さん委員会委員



当日の天気は曇りがちで参加者の出足がやや心配されたが、結果は予想した人数を遥かに上回る 85 人の参加を得て盛況であった。講座は、予定通り午後2時に始まり、中里さんより地名の歴史や古代から現代までの地名の解釈につき説明があり、次に蓮田市成立の歴史に話が進んだ。小休憩後、蓮田市の大字、小字に関してそれぞれの由来や意味などを丁寧に話して戴いた。地名の解釈が確定していない場所が存在することなども判明し、参加者の興味を益々掻き立てた模様である。講座は、参加者との質疑応答をもって午後3時50分に終了した。参加

者からのアンケート結果、回答者の約9割が満足しており、開催の目的を十分に達成できたと思われる。参加者は、蓮田市、白岡町以外に伊奈町、さいたま市、上尾市、春日部市からも参加いただいた。当日は昨年6月の「南極から見る地球」で取材があった JCN 関東(ケーブルテレビ)が講座の始めから最後まで取材を行い、中里講師、田村会長、参加者へのインタビューも行われた。本企画がユネスコ全国誌 2010年5月号にも大々的に紹介された。

＝ご 案 内＝

地域文化遺産スタディ開催
今年度テーマ：蓮田・白岡の
「祭りと芸能」8月・2月に開催予定

書きそんじハガキ ありがとうのコーナー

ユネスコ世界寺子屋運動21年



世界をスマイルで いっぱいにする☆

(書きそんじハガキが寺子屋運動の力になっています)
もし、あなたがあなたのお子さん・お孫さんが学校へ行けなかったらどうですか？世界では学校へ行けない子供が約7500万人もいます。

その様な子供のためにユネスコでは、20年に渡って一人でも多くの子供が学ぶことができるように活動を続けてきました。そのための活動の一環として書きそんじハガキを募っております。50円のハガキで約45円分の募金になります。例えばカンボジアではひと月500円でひとりのこどもが寺子屋で学ぶことができます。

書きそんじハガキ・切手(未使用)・募金の協力いただいた方。(敬称省略・順位不同)

すばる(椿山自治会館内)、蓮田駅東口郵便局
江頭和子、加藤寿子、小斉平、木宮、上田友紀子
池畑千恵子、カフェピポディ(濱田)、森木キミ子
クリーニング(渋谷)、長嶋佑介、田村勝彦
ファンタシスタ美容室、熊倉 晃、江口 保、山崎茂夫、
宮崎 博、後藤志郎、若林 博子

ご協力ありがとうございました。

= ユネスコ憲章 前文から =

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に、平和のとりでを築かなければならない。……よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない

会員紹介のコーナー

斉藤恵美子(さいとう えみこ)

与野市(さいたま市)出身。

今の新都心は夢にも想像できず、結婚7年、子育ての地として、緑豊かな蓮田市に転居、40年。趣味の海外旅行で知った世界の国々の生活、特に貧困の子供の様子が目から、耳から離れず、知るばかりでなく、人類の平和と平等に、何か協力出来たらと思っております。



長嶋佑介(ながしま ゆうすけ)

群馬県中之条町生まれ。

昭和30年 蓮田市に転入。

黒浜小中学校を卒業。現在、定年退職後再任用として勤務中。

自治会・PTA・OB会・国際文化交流会・交通安全協議会等活動のかたわら若干の野菜づくりを楽しんでいます。

今後、さらに蓮田・白岡をはじめ日本文化を学び、国際平和の一助にと身近で出来る事から実践してゆきたいと思っております。これまでの当ユネスコ協会活動に感謝しますと共に、これからもよろしくお願い致します。



峰森武治(みねもり たけはる)

北海道美瑛町生まれ。

昭和37年上京、昭和55年に白岡町民となる。

丘の町美瑛(びえい)はTVコマースで有名、春夏秋冬のパノラマは素晴らしい。故郷出身者とは年一回以上交流をしています。

ユネスコとは、地域文化とのかかわりで参加。もっぱら町の歴史を見聞することが中心です。



= ユネスコ会員募集 =

会員を募集しています。ホームページをご覧ください。又は事務局までお問い合わせください。

蓮田・白岡地方ユネスコ協会事務局 後藤志郎

〒349-0141 蓮田市西新宿 4-72-19 TEL 090-5567-8556

会員名簿（2010年5月1日現在、五十音順、敬称略）

（個人会員）井上勝昭 板垣時夫 瓜巢 一美 牛尾恵子
上田友紀子 江原 正幸 小俣昌弘 金盛 日出子 金子英一
木村 滋 木村勝也 雲見昌弘 小杉正孝 近藤 健朔
小松崎朋子 佐々木武司 斉藤恵美子 斉藤憲義 齋藤隆宗
篠原 恒 高山小百合 対馬更生 豊田和沖 中村 隆夫
長嶋佑介 永井国彦 中村シノブ 長瀬恒雄 西田耕三郎
西尾まゆみ 野口勝利 野上俊明 早川正恭 半田雄司
長谷川麻里子 久松直樹 平澤庄吾 藤井隆雄 福原良男
福地光男 細井欽作 三木真智子 峰森武治 向山裕規
村上慶子 村井アヤ子 森木キミ子 望月充丈 山本一夫
吉田秀晟 渡辺俊郎

（賛助会員）

石崎光夫 行田邦子 雲田康夫 関口 茂 中島のぶ子
日比勇三 松本行夫 成田能祥

（法人・団体会員）

(株)エルビー<東京> 彩々楽 白岡八幡神社
セブンイレブン船橋米ヶ崎店 (株)ラマツアーズ
郵便事業(株)蓮田支店

（理事・監事）

飯島 剛 江口 保 熊倉 晃 後藤志郎 田村勝彦
宮崎 博 山崎茂夫 若林博子

2009年度下期（10月～3月）の主なあゆみ

月	日(曜日)	事業内容	会場等
10	3・4(土・日)	関東ブロックユネスコ活動研究会 in 栃木	足利市
11	1日～	書きそんじハガキ回収キャンペーン開始(11～3月)	
	7・8(土・日)	日本ユネスコ運動全国大会 in 横浜	横浜市
	14(土)	第2回国際シンポジウム	はびすしらおか
12	1(火)、11(金)	蓮田市教育委員会、白岡町教育委員会との意見交換会	白岡町役場、蓮田市役所
2	6(土)	第4回地域文化遺産スタディ「第4回蓮田歴史入門Ⅱ」	蓮田市図書館

※理事会：10/18、12/20、1/24、3/13 臨時理事会：11/28、2/14 会報編集委員会：11/28に開催した。

2010年度の主な活動計画

月	事業内容	月	事業内容
4	2010年度総会、埼玉県ユネスコ連絡協議会理事会	9	出前講座開始、ユネスコ関東大会、全国大会(奈良)
5	蓮田市・白岡町教育委員会との意見交換会	10	第3回国際文化スタディ、万亀子イカダ・ル講演会
6	第61回日本ユネスコ協会連盟総会、会報発行	11	書きそんじハガキキャンペーン開始
7	文化遺産巡り	12	会報発行
8	第5回地域文化スタディ(蓮田の祭礼と芸能)	2	第6回地域文化スタディ(白岡の祭礼と芸能)

編集後記

会員、編集委員・理事の協力によりこの度第3号を発行する事ができました。

2008年4月に設立されて以来3年目の協会で、その歴史も浅く、認知度も十分とは言えません。会報を通じ、会員相互のきずなを深めると共に、ひとりでも多くの方々に活動内容を理解していただく為に3号はカラーでの発行と致しました。いかがでしょうか！誌面に対する皆様の意見がいただければ幸いです。次回4号は12月に発行の予定です。会員相互の“きずな”をより深める内容で企画できればと考えております。今後とも変わらぬご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2010年5月末日 山崎 茂夫

[会報編集委員会 委員：江口、金盛、長谷川、望月、山崎、若林]